

王立プノンペン大学（3月2日～3月10日）

受け入れ大学：王立プノンペン大学

参加ユニット：V（2名、ショートコース）

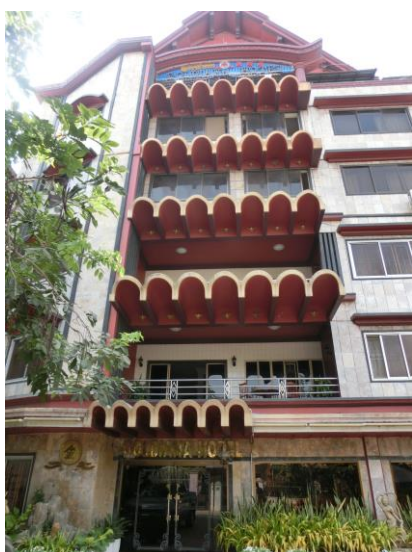
宿舎：Goldiana Hotel（住所：No. 10+12, St. 282, Sangkat Boeung Kang 1, Khan Chamkarmon, Phnom Penh に宿泊。朝食あり。電話番号：+855-23-219 558, 費用：53US\$/ twin room (26. 5US\$/ person)

（参考）ホテルの周りは、改修中の建物が多く、砂埃等が多いが、部屋は十分である。ただし、ホテルの中も改装中であり、同じフロアにも改修中の部屋があり、埃が多い。

交通手段：40US\$/日、空港-ホテル間（20US\$往復）、学校-ホテル間の移動は運転手付きの車、Mr. Chhy 012-30-8835)

上記以外は、トゥクトゥク等を使用（トゥクトゥク：1乗車、3US\$程度）

担当：下永田 修二



Goldiana Hotel

3月2日（月）

7:30 学生2名が成田空港第1ターミナルに集合。チェックインを済ませ、予定通り、9:30頃、出発。ベトナム、ホーチミン空港を経由し、17:30頃プノンペン空港に到着。VISA、入国手続き等を済ませ、王立プノンペン大学カリヤン先生と Nguon Kollika 先生(INSITUT DE TECHNOLOGIE DU CAMBODGE)に出迎えてもらいホテルに移動。

コメント：交通渋滞のため、空港からホテルまでは1時間30分以上かかる。空港にてSIMカード

を購入。

3月3日（火）

11:00 ホテルロビーにて、授業の準備。

12:30 ホテルを出発し、王立プノンペン大学へ移動

13:00 授業を実施する教室は、物理実験室。14:00 からの授業にむけて、プロジェクター、仮設スクリーン(ホワイトボードに模造紙を貼る)を準備し、Sou Kalyan 先生と物理学科 Khun Kimleang 先生と打ち合わせを行う。

13:50 王立プノンペン大学 Head of Department of Physics および Department of Physics の先生方と面会（参加者：Ney Sina 学部長、Tay Vuthea 副学部長、Long Khy 先生、Khun Kimleang 先生、Sou Kalyan 先生、千葉大学学生：2名、千葉大学教員1名（下永田）

〈内容〉

- ・ 学部長からの歓迎の言葉
- ・ 千葉大学からの挨拶（下永田）
- ・ 千葉大学学生から授業案についての説明
- ・ 学部長らと記念撮影



学部長と物理学部の先生方と記念撮影

14:00 大学にて物理学部3年生21名を対象に授業

16:00 授業終了



大学での授業の様子

コメント：Ney Sina 学部長はじめ物理学部の先生方と面会し、歓迎の挨拶をされた。その後、物理実験室に移動し、早速、物理学部の3年生を対象に2時間の授業を実施した。ホログラフィーに関する内容で、学生は、ホログラフィーの技術については、はじめて聞く内容であり、学生は、千葉大学生の説明を集中してきいていた。千葉大学2名の学生は、はじめての授業ということもあり、特にはじめは緊張した面持ちで、英語で授業をはじめていたが、すぐに、自分のペースをつかんだ様子で、懸命に学生が理解しやすいように取り組んでいた。昨年もそうであったが、学生の理解をより促すために、授業を一緒に参観していただいていた王立プノンペン大学の Khun Kimleang 先生が、ときどき、クメール語で補足説明を行ってくれた。授業の後半では、グループで3Dのある生活を考え、発表を行うという内容であったが、イメージが湧きにくい雰囲気、授業を明日以降

の検討課題ということで、反省会も行った。

3月4日（水）

参加者：王立プノンペン大学教員：2名（Sou Kalyan 先生 Khun Kimleang 先生）、Hun Sen Chumpou Voin High-school, 教員1名（物理教員：Vong Arun 先生）千葉大学学生2名、千葉大学教員1名（下永田）

6:45 ホテルを出発

7:30 王立プノンペン大学に寄り、Sou Kalyan 先生 Khun Kimleang 先生と合流し、Hun Sen Chumpou Voin High-school に向かう

7:50 Hun Sen Chumpou Voin High-school に到着、到着後、すぐに理科室に向かい、授業の準備を開始

8:00 授業開始（高校3年生、32名）

10:00 授業終了

12:00 授業を参観してくれた王立プノンペン大学の Sou Kalyan 先生、Khun Kimleang 先生、さらに、昨年、授業を行ったときに世話をしてくれた Limhuor 先生と Nguon Kollika 先生と合流し、一緒に昼食会。本日の授業の話やカンボジアでのツインクル活動についての意見交換を行った。

コメント：本日から、高校での授業がはじまった。前日に、大学生に授業を行ったことで、生徒を引きつけるために、最初に日本の紹介を多く入れ、ホログラフィーの内容についても、パワーポイントの内容を修正し、説明の順番を変更するなど、改善がなされ、高校生を引きつけることができていた。最後のグループワーク「3Dのある生活を考える」部分でも、高校生が理解しやすいように、例を事前に提示するなどした結果、高校生からのプレゼンテーションでは、前日より、発想豊かな発表がなされた。授業後に、Lim Chanththa 校長先生はじめ、学校の先生方と面会した。高校生だけで、2,000名を超える大きな学校で、小学生から合わせると10,000名以上の児童・生徒が通っている大きな学校であるということであった。現状として、校舎が足りないなど問題もあり、日本からの施設面、教育内容面での援助に助かっている等の話もきかれた。

授業の内容については、前日よりさらに分かりやすくなっており、改善されていたが、木曜日にもう一度、高校生対象の授業があり、ワークシートを工夫するなど、課題もいくつか見つかかり、授業後に検討会を行った。



Hun Sen Chumpou Voin High-school



授業の様子



グループワーク中に助言を行っている様子



グループワークの発表の様子



授業を行った高校生との集合写真



Hun Sen Chumpou Voin High-school の先生方

3月5日 (木)

11:00 ホテルロビーにて、本日使用するワークシート、および、日本文化の紹介と学生へのプレゼンも兼ねた折り紙の準備を行う。

13:00 ホテルを出発し、王立プノンペン大学へ移動

13:30 授業を実施する教室は、前回同様、物理実験室。14:00 からの授業にむけて、プロジェクター、仮設スクリーン (ホワイトボードに模造紙を貼る) の準備を行う。

14:00 授業開始 (王立プノンペン大学物理学部3年生 43名)

参加者:王立プノンペン大学教員:3名 (Sou Kalyan 先生 Khun Kimleang 先生 Long Khy 先生),
千葉大学学生2名, 千葉大学教員1名 (下永田)

16:45 授業終了



説明を行っている様子



授業に参加している学生と実験室の雰囲気



授業を行った学生との集合写真



王立プノンペン大学キャンパス

コメント:今回は、前回よりも人数が多く、43名の大学生を対象にした授業となった。人数が多く、また、前の授業の関係で遅れてくる学生もおり、はじめの導入は行いきにくい状態であったが、自己紹介から日本文化の紹介の間に、学生を引きつけ、メインの内容に入っていくことができていた。

授業は、これまでの2回の授業経験が生かされ、解りやすい授業となっていた。人数が多かったこともあり、これまでの2回の授業よりも時間がかかり、3時間近くの授業となったが、与えられた3時間の中で、ホログラフィーのイメージが伝わるように丁寧に説明を行っていた。

グループワークでは、前日までに授業を行い、大学生および高校生から出た3Dのアイデアを例示し、学生が発想を膨らませることができるように工夫がなされていた。特に、英語での授業であり、言葉でイメージを膨らませることが難しく、絵を例示することにより学生のイメージを膨らませ、ディスカッションが明らかに活発に行われるようになっていた。

3月6日(金)

11:00 ホテルロビーにて、本日、高校で行う授業の最終確認を行った。ワークシート、日本文化紹介の準備を行った。

12:45 王立プノンペン大学に向けて出発。

13:15 王立プノンペン大学 Khun Kimleang 先生と合流。Hun Sen Chumpou High-School に向かう。

13:45 Hun Sen Chumpou High-School に到着。授業を実施する教室は、理科実験室。実験室の鍵が見当たらないということで、使用する教室に入るまでに時間がかかったが、14:00 からの授業にむけて、プロジェクター、仮設スクリーン(ホワイトボードに模造紙を貼る)の準備を行う。

14:00 授業開始(Hun Sen Chumpou High-School 3年生 34名)

参加者: 王立プノンペン大学教員: 1名(Khun Kimleang 先生), Hun Sen Chumpou High-School 教員(Soy Kunthea 先生)、千葉大学学生2名、千葉大学教員1名(下永田)

16:30 授業終了

17:30 王立プノンペン大学に到着。王立プノンペン大学の隣にある、カンボジア日本人材開発センター(CJCC)を見学。

コメント

学生2人は、ふたりとも、腹痛を抱えている様子であったが、授業は、熱心に行い、これまでの4回の授業の中で最も活発な生徒の活動を促すことができていた。Khun Kimleang 先生、Soy Kunthea 先生が途中で、理解を深めるために、クメール語で補足説明を行っていた。今回の学生は、学生2人の質問に対して、積極的に答えてくれていた。英語の能力も高く、ふたりの学生に英語で質問を投げかけていた。

日本文化の紹介では、4回の授業を通して、アニメや漫画というキーワードでは、イメージが湧かない様子であったが、クレヨンしんちゃんやドラえもんという言葉は、よく理解していた。特に、

クレヨンしんちゃんについては、プノンペンテレビでも放送されているということであった。あとは、相撲、富士山はわかるようすで、天婦羅については、似たような食べ物がクメール料理の中にもあるようであった。ホログラフィーの内容については、視覚による奥行き判断等理論的なところも理解できている様子であった。本日も、Khun Kimleang 先生、Soy Kunthea 先生が途中、内容が難しいところではクメール語で、補足説明を行ってくれていた。特に Soy Kunthea 先生は、普段から生徒たちをみていることもあり、生徒の様子からタイミングよく補足説明を加えてくれた。

4日間の授業を通して、2人の学生は、受講している学生、生徒が理解しやすいように工夫を行っており、説明資料、英語でのプレゼンテーションも改善していった。このことから非常に充実した経験ができていた。カンボジアの生徒については、今回からプノンペン市街の高校（空港の近く）で授業を実施したこともあり、英語でのコミュニケーションが昨年度より向上していた。また、カンボジアでは、はじめに大学生を対象に授業を行うことで、英語でのコミュニケーションのとりかたの導入ができるため、今後も、大学生を対象にした授業も継続して実施させていただくことによって、参加している学生は、よりプレゼンテーション能力を向上させることができる。



説明の様子



丁寧に説明している様子



生徒のプレゼンテーションの様子



集合写真

本日は、王立プノンペン大学のとなりにあるカンボジア日本人材開発センター（CJCC）において、KIZUNA フェスティバルが行われており、カンボジアの学生を含む地域の人々、カンボジアに住む日本人とも交流することができた。日本の援助で建設された、トンレサップ川に架かる橋の紹介なども施設内で行われていた。



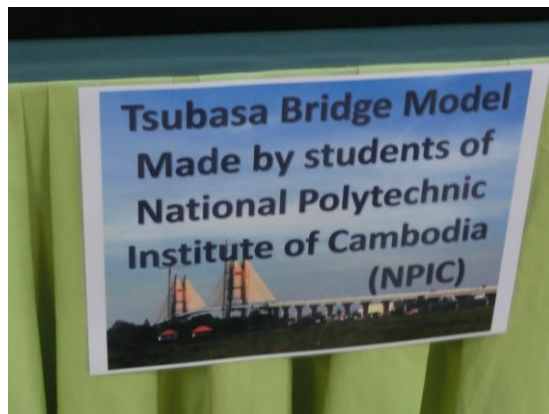
CJCC のエントランス



CJCC フェスティバルの展示



Tsubasa Bridge の模型



3月7日（土）～3月9日（月）

3月8日がWomen's Dayで、月曜日の9日が振替休日になっているため、3日間は、プノンペン市街観光。Kizuna フェスティバルでお会いした、日本人の倉田さんと食事会などを行った。

3月10日（火）

プノンペン空港出発

3月11日（水）

日本到着